



亜種(あしゅ)て何？

シマエナガ人気が続いていますが、シマエナガはエナガの「亜種」であり、本州以南のエナガは顔に黒い帯があるというのはもはやよく知られているところ。今回はこの「亜種」の話です。

- 「亜種」とは：あるひとつの種、仮にAとする、その一部が主に地理的に隔離されることにより色や大きさなどに変化が生じ、その変化した特徴が代々受け継がれ遺伝的に固定されたもの。仮にA1とする。外見上の違いが明瞭なものからほとんどないものまである。亜種名がつく場合もある。AがA1に置き換わるわけではなく、両者は離れた場所で同時に存在する。AとA1は交配可能。
- 「基亜種」：亜種A1がある場合、Aを「本種」とはいわず「基亜種」と称します。最初に新種として記載された特徴をもつ亜種のこと、通常「基亜種」は種そのものの名前で呼ばれています。
- 北海道の野鳥では以下の3種が本州の亜種とは見た目がはっきり違い、別の名前がついています。シマエナガ→エナガ、ミヤマカケス→カケス、シロハラゴジュウカラ→ゴジュウカラ (写真左から順3枚)



これらは「亜種シマエナガ」のように「亜種」と頭につけて表記されることもあります。

またコゲラは、北海道の亜種エゾコゲラに見慣れていると、東京で見る亜種コゲラはやや小さくスリムで色が濃いと感じます (上写真右、東京都上野恩賜公園にて撮影)。

- 北海道の亜種にはエゾアカゲラ、エゾフクロウ、キタキバシリなど「エゾ」「キタ」とつくものがありますが、それらの多くは外見上の違いがわずかで分かりにくいです。
- 日本の国鳥キジ (北海道にはいない) にはいくつかの亜種がありますが、飼育されたものは亜種の違いを考慮されず全国各地に放鳥されたため、遺伝子レベルでの亜種の交雑が問題となっています。
- 2つ以上の亜種が同じ地域に生息していない場合は亜種名で呼ばれないことが多いです。しかし、シマエナガはシマエナガとして広まって人気者となり、エナガと呼ぶことで混乱する可能性が高くなったので、一般的にシマエナガと呼ばれています。
- 同じ場所で2つ以上の亜種が見られる例もあります。ウソには亜種ウソ、亜種アカウソ、亜種ベニバラウソ (下写真左から順3枚)、カワラヒワには亜種カワラヒワ、亜種オオカワラヒワがあり、どれも旭山での出現記録がありますが、これらは渡った先で同じ場所にいるもので、繁殖地は違います。



- 北海道と本州以南の哺乳類の対比もみると、エゾシカ、キタキツネ、エゾタヌキ、エゾモモンガは「亜種」レベルでの違いであるのに対し、クマとウサギとリスは外見は似ていてもひとつ上の「種」レベルで違っており、ヒグマとツキノワグマ、エゾユキウサギとニホンノウサギ、エゾリス (上写真右) とニホンリスはそれぞれ別の「種」です。
- 植物ではさらに「変種」があり、また園芸作物などの「品種」もありますが、長くなるのでここではそのことだけお伝えして今回はそろそろ終わります。

**レストハウス「ぼるく」は4月14日金曜日10時より営業します
噴水も4月下旬より運転開始予定です**

旭山野鳥メモ④⑧キクイタダキ

キクイタダキ Goldcrest *Regulus regulus* スズメ目キクイタダキ科
日本一小さい鳥としてもはや有名。重さは1円玉3～5枚分ほど。
かつてウグイス科に属していたが今は独立した科となっている。

山地で繁殖し冬は低地に移動。旭山では5月中旬から10月上旬の間は見られないが、一度だけ6月に幼鳥連れの家族が現れたことがあり、あまり遠くには移動しない個体もいると考えられる。

頭頂部の黄色い羽が「菊を頂いたよう」というのが名前の由来。英名も頭頂部からとられている。雄はその頭頂部の黄色い羽の中に赤い羽が見えるが、肉眼で観察する際には見えにくく、写真でもはっきりとは見えないこともある。しかし繁殖期にはその赤い羽をあり得ないほど大きく膨らませて雌にアピールする(写真)。これが見られるのは春先だけ。両翼背面に目玉のような模様があるが擬態かどうかは不明。

古くは「松雀鳥(まつむしり)」「まつぐり」と呼ばれたように、見られるのはほとんどが針葉樹の中だが、春先にはヤナギ類の花を食べる。「松雀鳥」は俳句の春の季語であるように、春先に動きが目立つようになる。

常緑針葉樹にいる時は葉の中を細かく動いて見つけにくいですが、すぐには逃げず、葉の切れ目や枝先に来た時がシャッターチャンス。野鳥撮影者の間では今やシマエナガに次ぐ人気者となっている。



2023年4月の野鳥トピックス

新着夏鳥: ①ベニマシコ 3/23 ②ヤマシギ 3/23 ③ホオジロ(写真、雄) 3/27 ④モズ 3/31 ⑤キジバト 3/31
⑥シロハラ 4/4 ⑦イカル 4/4

- ・シマエナガ: 営巣に入っています。離れて静かに観察しましょう
- ・クマガラ: 園内でときどき見られていますが来たり来なかったりです
- ・ヤマゲラ: 鳴き声はよく聞かれ、地面で採餌する姿も時々見られます
- ・アカゲラ: 「キョキョキョ」と激しく鳴いて追いかけてっしています
- ・キクイタダキ: 例年4月に入ると観察頻度が高くなってきます
- ・ヒレンジャク、キレンジャク: どちらも3月中も時々観察されていました
- ・マヒワ: 3月下旬に50羽ほどの群れが来ました
- ・ウソ: 亜種ベニバラウソが何度か観察されました(写真は表)。通常の亜種ウソは時々見られています
- ・シジュウカラ: 囀りが盛んになり近くで2羽が囀り合戦していることもあります
- ・ヒガラ: 囀り盛んです



旭山記念公園ミニ図鑑2023年4月



ふきのとう=アキタブキ、雌花(左)、雄花(右)



ナニワズ 春一番に咲く花



バッコヤナギの花



ケヤマハンノキ花(花粉症注意)



キタコブシ花芽4月下旬開花



エルタテハ 成虫越冬する蝶



エゾサンショウウオ卵塊



公式サイト

「アカゲラ通信」 第114号 2023(令和5)年4月7日発行
(公財)札幌市公園緑化協会 旭山記念公園管理事務所
<https://www.sapporo-park.or.jp/asahiya/> 〒064-0943 北海道札幌市中央区界川4丁目
電話 011-200-0311(金・土・日・祝日 10時～16時) FAX 011-200-0351